

第6回札幌市食育推進会議

議 事 録

日 時 : 平成21年2月25日(水) 午後2時開会
場 所 : WEST19(保健所)2階研修室

1. 開 会

事務局（高橋部長） 皆様、ご苦労さまでございます。

定刻となりましたので、ただいまより、第6回食育推進会議を開催させていただきます。

本日は、月末に、また、お足元の悪い中をお運びいただきまして、ありがとうございます。

私は、会長に引き継ぐまでの前段の司会進行をさせていただきます保健福祉局保健所健康企画担当部長の高橋と申します。よろしくお願いいたします。

実は、札幌市で昨年4月に機構改革がございまして、今まで私どもが所管しておりました健康衛生部が本庁の4階にあったのですけれども、健康衛生部とこの19丁目の保健所が統合されまして、新たな保健所として今年度の4月にスタートしたところでございます。今まで、私ども本庁の4階にありました健康衛生部のスタッフの多くが昨年4月からこのWEST19で執務をさせていただいております。

私につきましては、昨年度まで健康さっぽろ21の推進などを健康衛生部で担当しておりましたが、前任の請井歯科保健担当部長が昨春に中央区の保健担当部長として転出いたしましたことから、今年度、食育を担当させていただいております。皆様には、前任者同様、どうぞよろしくお願いいたします。

そこで、当会議は、答申をいただきましてから少し時間があいてまいまして、今年度初めてということになってしまいましたけれども、既にご案内申し上げましたように、昨年、皆様に鋭意ご検討いただきました計画に加えまして、私ども札幌市の行動計画、アクションプラン、私ども札幌市が事業の実効性を保つために行動計画を加えました内容で昨年10月にスタートしたところでございます。

本日は、札幌市の行動計画に基づきまして、スケジュール等、それから連携して進める事業等につきまして事務局案を説明させていただくとともに、現時点における皆様の取り組みなどもご披露いただきまして、活発な会議にさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

そこで、今回新たに就任された委員がでございます。

食品衛生協会の方での役員改正に伴いまして、大場委員から新たに畑中委員に就任をお願いしておりますので、ご紹介申し上げたいと思います。

畑中委員、恐縮ではございますけれども、一言ごあいさついただければと思います。

畑中委員 畑中でございます。

何もわかりませんが、よろしくお願いいたします。

事務局（高橋部長） どうもありがとうございます。

また、本日の会議につきましては、天谷委員、石井委員、小野寺委員、齊藤委員、ピアノカ委員、宮地委員、山口委員、吉村委員は欠席ということでご連絡をいただいております。また、山本委員はちょっと遅参するということでございますが、委員23名中15名の出席の予定でございまして、本会議は成立してございますのでよろしくお願いいたします。

す。

始まります前に、この4月から私どもと一緒にこのWEST19の方で執務をしております保健福祉局藤田医務監からごあいさつを申し上げたいと思います。

よろしく願いいたします。

藤田医務監 保健福祉局医務監の藤田でございます。

委員の皆様には、本日は大変お忙しい中をご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

さきの札幌市食育推進計画の策定につきましては、委員の皆様から積極的なご意見、ご指導をいただきながら熱心にご審議いただきました結果、この北海道の札幌市にふさわしい充実した内容の計画をつくることができましたことに対しまして、心からお礼を申し上げます。

計画をスタートいたしました直後の昨年10月には、皆様もご承知のとおり、この計画を市民の皆様へ啓発することを目的としまして、札幌市食育推進計画シンポジウムを開催させていただきました。その結果につきましては後ほど報告させていただくことになっておりますが、事前にお断りする方も100名を超え、会場は満席の盛況でございました。

私も参加させていただきましたが、本会議の会長を務めていただいております天使大学看護栄養学部の荒川教授から、「北海道型食生活について」と題してのご講演をいただく中で、食育推進計画につきましてもわかりやすく説明していただいたところでございます。また、会場では、参加者皆様が熱心に耳を傾けていただいている様子を拝見し、改めまして市民の皆様の食育への関心の高さを感じた次第でございます。

今後、未来を担う子どもたちを初め、一人でも多くの市民の皆様が健康で幸せに生活していただくために、関係の企業、機関、団体などの協力を得ながら、市民の皆様とともに札幌市食育推進計画を推進していきたいと考えております。

委員の皆様には、計画の推進に向けて今後ともより一層のご指導、ご協力をいただければ幸いです。

最後になりますが、本日の会議が実り多いものになりますよう期待いたしますとともに、委員の皆様のますますのご健勝とご活躍をお祈り申し上げます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

事務局（高橋部長） それでは、恐縮ですが、これからは荒川会長に会議の進行をお願いしたいと思います。

よろしく願いいたします。

2. 議 事

荒川会長 それでは、会議を進めさせていただきます。

議事に入ります前に、ただいま大変うれしいニュースをお受けいたしましたのでご披露いたします。

本会議のメンバーであります高橋忠明委員が、先般、旭日賞を受賞されたということで、委員の皆様、また、市の関係者の皆様とともに祝意を表したいと思えます。

本当におめでとうございます。（拍手）

それでは、具体的な議事に入らせていただきます。

ただいまご紹介がありましたけれども、昨年10月に食育推進計画が実際にスタートし、ご披露されたところでもあります。本日の会議は、その後初めてということで、その後、どのような動きがあって、今後、どのようなスケジュールが予定されているかということ、事務局からご説明いただきますとともに、関係諸団体の活動等についてもご披露していただくというような形で進めさせていただきたいと思えます。

それでは、早速、事務局の方からご説明をいただきたいと思えます。

よろしく願いいたします。

事務局（加藤課長） 事務局の食育を担当しております加藤と申します。保健福祉局保健所におります。昨年に引き続き、皆様と一緒に食育について推進させていただきたいと思えますので、どうぞよろしく願いいたします。

先立ちまして、資料の確認をお願いいたします。

本日、資料を皆様のお手元にご用意しておりますが、順に、会議次第、座席表、委員名簿、資料1といたしまして札幌市食育推進計画シンポジウム2008報告書、資料2といたしまして食育推進計画スケジュール（案）、資料3といたしまして食育推進ネットワーク事業（案）、資料4といたしまして食育ホームページ・食育サポーター事業（案）、資料5といたしまして食育ホームページ掲載のイメージ（案）ということで用意しております。次に、資料6として食育サポート企業等一覧ということで、食育ホームページ掲載のイメージ（案）を用意しております。最後になりますが、資料7として食育推進事業報告書を用意させていただきましたが、皆様、おそろいでしょうか。

それでは、説明の方に入らせていただきます。

資料1として、札幌市食育推進計画シンポジウム2008報告書でございます。

スタートに向けた啓発イベントということで、10月にちえりあで開催いたしました。

このシンポジウムは、札幌市食生活改善推進協議会と共催で開催させていただきました。講演では、先ほど医務監のお話にもございましたが、荒川会長から計画策定に至った経緯、計画の柱でもあります北海道型食生活について非常にわかりやすくご講演をいただいております。

二つ目の講演といたしまして、「子どもの食育と地産池消」と題して、北海道食のネットワーク事務局長の大熊久美子さんから、食育講座の具体的な実践事例を、活動写真を見ながらお話しいただいております。

このほか、札幌市食生活改善推進協議会の皆様による食育ダンス、パネル展もございまして、440名の大変多くの方にご参加を得て盛況のうちに終わりましたことをご報告いたします。お手元に詳細な資料がございますので、後ほど読んでいただければと思えます。

以上でございます。

荒川会長 ありがとうございます。

札幌市の食育推進計画シンポジウム2008の報告書に関しまして、委員の皆様から何かご質問等はございますでしょうか。

(「なし」と発言あり)

荒川会長 後ほど、ぜひお目通しいただければと思います。

それでは、二つ目のご説明をお願いいたします。

事務局(加藤課長) それでは、資料2の食育推進計画スケジュール(案)をご覧くださいと思います。

このスケジュール(案)は、今後の予定を示させていただいております。

本日の食育推進会議が2月にございまして、3月には食育ネットワーク会議を開催し、協働イベントの開催に向けて進めさせていただきたいと思っております。

具体的な取り組みといたしましては、国が定めた6月の食育月間、8月の野菜摂取強化月間、10月の食生活改善普及月間に協働イベントの開催や事業の実施を想定しております。

内容につきましては下段に示しております。6月の食育月間につきましては国が定めた食育月間ということで既に皆様もご存じかと思えますけれども、国民への食育の浸透を図るために、国、地方公共団体、関係者団体等が重点的、効果的に食育推進運動を実施するという内容のものでございます。8月のイベントにつきましては、札幌市民は野菜の摂取量が非常に少ないという課題に対処するために、私ども保健福祉局は、8月を野菜摂取強化月間と定め、現在、関係局と協力して野菜摂取量強化事業を行っているところでございます。10月の食生活改善普及月間につきましては、厚生労働省が生活習慣病予防の取り組みの一環として定めている月間でございまして、この事業につきましても保健福祉局といたしましては子ども未来局、教育委員会等の関係局と連携して事業を行っているところでございます。

スケジュール(案)については以上でございます。

荒川会長 ありがとうございます。

委員の皆様から食育推進計画スケジュール(案)につきまして、何かご意見等はございませんでしょうか。

いかがでしょうか。特にございませんか。

(「なし」と発言あり)

荒川会長 ありがとうございます。

それでは、三つ目のご説明をお願いいたします。

事務局(加藤課長) 札幌市食育ネットワーク事業でございます。

これは、関係者が連携して進める食育の事業のうちというところをしております。前回、第5回の食育推進会議で武藤委員から、これだけのメンバーの皆さんがそろっている

のだから、各団体の横の連携を深めて食育を推進していく会議を招集してはどうかといったご意見をいただきました。そこで、事務局としても、食育をさらに効果的に進めるためには食育に関係する団体の皆様との会議が必要ではないかということで、今回、ネットワーク会議を立ち上げることを提案させていただくことにしております。

食育関係者として、今回は子どもの食育を中心に構成させていただいております。この資料3のとおり、構成メンバーといたしましては、保育・教育関係者、各種団体、ボランティア、食育関連事業者、生産者、団体としましては、私立保育所連合会、私立幼稚園連合会、校長会（小・中）、PTA協議会、食生活改善推進協議会、調理師養成施設協会、中央卸売市場協会、日本チェーンストア協会、農業協同組合、その他となっております。

この事業につきましては、一応、会議の中でどういったことをしていただくかというたたき台としてのご提案をこちらの方に記載しておりますけれども、早寝早起き朝ごはん推進運動、野菜摂取強化の取り組み、計画の柱でもあります北海道型食生活推進事業を中心にそれぞれの資源や活動をさらに結びつけた広がりを持った推進になっていければよいのではないかと考えているところでございます。

この食育推進ネットワークの位置づけでございますが、食育推進会議は、計画の進捗状況等の進行管理や、必要があれば修正等を行うといった計画の円滑な推進を図ることを目的に開催する審議会でございます。一方、ネットワーク会議につきましては、食育事業を関係団体、行政が連携して主体的に取り組むための会議でございます。関係機関の情報交換、協働事業の検討、食育活動の実施を行うことを目的として考えているところでございます。食育の事業を進めるためにみずから計画し実行する会議体というふうにとらえてございます。

当ネットワークについては、ご了承いただければ、本日の会議をもって立ち上げることとしたいと思います。

なお、構成委員の皆様につきましては、事前にご説明を申し上げまして、ご協力の旨ご了解を得ておりますことをご報告させていただきます。

ネットワーク事業につきましては以上でございます。

荒川会長 ありがとうございます。

それでは、食育推進ネットワーク事業（案）につきまして、委員の皆様からご質問やご意見があればお願いしたいと思います。

今ご説明がありましたように、食育推進はさまざまなライフステージを対象としますけれども、この事業につきましては、子ども向けということで、最初のスタートという位置づけかと思っておりますので、そんな視点でご覧になっていただければと思います。

特にご質問、ご意見等はございませんでしょうか。

（「なし」と発言あり）

荒川会長 それでは、このような事業がスタートするということをこの会議としてご承認いただけますでしょうか。

(「異議なし」と発言あり)

荒川会長 ありがとうございます。

続きまして、四つ目のご説明をお願いいたします。

事務局(加藤課長) 次に、札幌市食育ホームページと札幌市食育サポート事業について、あわせてご説明させていただきます。

資料4をご覧いただきたいと思います。

食育の推進に当たっては、市民に食育に関する情報を広く速やかに届ける必要性、また、行政の情報だけではなくて民間の食育情報も同時に提供していくことが、企業による食育活動を活性化させ、食育を市民活動として根づかせるための有効な仕組みであると考えているところでございます。

具体的な取り組みといたしましては、食育ホームページの立ち上げ、食育ボランティア、食育サポート企業の募集でございます。

こちらの資料の右の下段の方にお示ししております食育ホームページでございますが、食育推進計画事務局であります保健所ホームページに食育のホームページを立ち上げて、市民が食育の情報を把握しやすい仕組みづくりを行うというものでございます。札幌市の各局や各区の食育情報のリンク、国や北海道等の食育関係機関、企業の食育イベント情報、市民の投稿システムによる市民の食育活動を紹介、掲載し、行政だけではなくボランティアの方や企業の取り組みもホームページに紹介し、情報の共有化や取り組みの活性につなげたいというふうに考えているものでございます。

次に、札幌市の食育推進事業を行政と協働で実施できる企業を募集、登録するというサポート事業についてご説明したいと思います。

資料の左側になりますが、食育サポーター事業として、食育ボランティア、食育サポート企業等として二つございます。この食育ボランティアは、個人、団体がございますが、学校や地域等が要請する食育活動に無料で食育のボランティア活動を行える個人あるいは団体を募集、登録し、要請に基づいて派遣するという事業でございます。

次の食育サポート企業等につきましては、札幌市の食育推進計画に賛同していただいた企業で札幌市と協働事業を行える企業を募集し、登録するというものでございます。これらのシステムを使いながら市民の皆さんが食育活動を広げていながら、そして、関係団体と連携した事業を取り組むということを行っていただき、その活動内容を札幌市のホームページにご紹介していくという仕組みづくりが食育ホームページ、食育サポーター事業でございます。

次のページ以降に、ホームページに掲載するイメージ案としてボランティア事業の個人の一覧表、企業の一覧表、それから、サポーターのイメージ図をご紹介させていただいております。

事業の流れにつきましては、参考としてボランティアの登録、依頼、企業への募集、依頼といった流れの資料をつけてございますので、後ほどご覧いただければ大変ありがたい

と知っているところでございます。

食育ホームページ、食育サポーター事業については以上でございます。

荒川会長 ありがとうございます。

それでは、食育ホームページの方で何かご質問、ご意見などはありますでしょうか。

加藤課長、これは3月10日に立ち上げ予定で作業が進められているのですね。

事務局（加藤課長） 当初、2月の末を予定しておりましたけれども、3月10日位に立ち上がる予定でございます。食育のホームページのイメージ図をカラーでお配りしているかと思えますけれども、先ほどお話しした内容がこちらのよう形でアップされる予定でございますので、ぜひアクセスしてご覧いただければというふうに考えております。

荒川会長 ありがとうございます。

このような立ち上げの準備が進められておりますけれども、委員の皆様から何かご要望等がありましたら、ぜひお願いしたいと思えます。

いかがでしょうか。

参考資料の下の方は企業等の一覧になっておりますけれども、結局、企業のサポーター事業とホームページが一体になって展開されていくという形になりますね。参考資料の下の方に、企業の登録等ということで、このホームページを使ってサポーターを……。

事務局（加藤課長） そうです。サポーターあるいはボランティアの募集等については、こちらにアクセスをしてダウンロードをして申し込みができます。それから、一覧表をこちらの方に掲載させていただきますので、市民の皆さんがアクセスしていただきますと、ボランティアの方たちが出てきます。そして、こちらの方でこの先生にお願いしようといったことができるようなシステムになっております。

荒川会長 そうすると、このホームページに相当の情報が盛り込まれていく形になりますね。

事務局（加藤課長） 関係者の皆様にも企業等の募集の登録等のお声かけをいただければ大変助かりますので、ぜひ広げていただけるようお願いいたします。

荒川会長 いかがでしょうか。

委員の皆様から何かお気づきの点、こういうふうに改善した方がもっとよりよくなるのではないかという点はあるですか。

どうぞ。

渡会委員 ボランティアの個人、法人を含めて、登録してからの期間は決められていないのですか。

事務局（加藤課長） 登録の際、期間はとりあえずこの計画に沿った事業で動いておりますので、募集はすぐにスタートするのですが、一応、この計画が24年までです。なのでそちらのところで一たんりセットされるかと思えます。今は初期の動きで進めさせていただいております。

荒川会長 随時、募集されていくということですね。

ほかに何かご要望、ご意見などはありませんでしょうか。

はい、どうぞ。

松井委員 わからないのでお聞きしたいのですけれども、こちらの方にボランティアで登録しますね。それから、依頼される方も同じホームページでこの方という依頼になるのでしょうか。そして、その調整はお互いでやることになるのですか。

事務局（加藤課長） 必ず、取り次ぎは行政になります。

あくまでも、募集をして審査をして登録するのは行政でありますので、学校など食育活動できるところに名簿はお配りいたしますけれども、一たん依頼を受けるのは私ども保健所の健康企画課が窓口となって詳細な内容をお聞きした上でこういった方がいらっしゃるということでおつなぎしたいと考えております。

荒川会長 よろしいですか。

企業も個人も一度フィルターにかけて登録するというシステムですね。

ほかにいかがでしょうか。

この辺は、計画推進の中心になっていく部分かと思いますので、じっくりごらんになっていただいて、ご意見、ご要望などをお出しいただければと思います。

事務局（加藤課長） このホームページは、今の段階ではこういう形で、随時、リニューアルをしていきたいと思っております。もし、ご希望、ご意見等がございましたら、それを次のリニューアルのときに参考にさせていただいて、よりよいものにしていきたいというふうに事務局では考えております。

荒川会長 それでは、3月10日をめどに、ぜひ委員の皆様もご覧になっていただいて、またご意見を集約して事務局の方にお伝えし、よりよいものにしていくということで進めさせていただきたいと思っておりますけれども、よろしいでしょうか。

（「異議なし」と発言あり）

荒川会長 ありがとうございます。

それでは、今、4番目と5番目をご説明いただきましたので、これで事務局の方のご説明は終わりました。ありがとうございます。

次に、各団体の計画にかかわる取り組みにつきましてご報告いただきたいと思います。式次第の順番に進めさせていただきたいと思っております。

最初に、札幌市調理師団体連合会の方からご報告いただけますでしょうか。

高橋委員 私は、ただいま議長からご紹介いただきました高橋でございます。

冒頭に叙勲のご紹介をいただきまして、大変恐縮、僭越に思っています。

それでは、早速、私に与えていただきました組織団体の中では一番最初にご指名いただいて、これも僭越、恐縮に思っているところでございます。

まず、以前、この委員会が立ち上がったときに調理師団体とはどういう組織かということの説明させていただきましたが、お忘れになられているかと思っておりますので、簡単にご紹介させていただきます。

札幌市には調理師がたくさんいらっしゃいますが、大きく六つの組織があります。和食、洋食、中華、すし、それから、バーテンダーも入っています。そして、めん類と六つの組織が大きく動いて、それぞれの組織が勉強、研究してテーマを上げて、それに向かって努力をしているということです。札幌市は10区でありますから、大、中、小の区ごとにも組織化されています。

大きな事業はどういうことかといいますと、今日のこのテーマをいただいてさせていただいております健康料理フェスティバルです。これは、調理師が直接その事業を行いながら市民に調理師の技術を指導し、市民の声を聞き、市民の健康はどうすべきかということをする行事でございます。

もう一つは、調理師に来ていただいて専門料理を教えてほしいということでさせていただいております。例えば、近隣の大学にいろいろな勉強、講習に行くという派遣事業をさせていただいております。それから、福祉施設です。高齢者の方々が施設に入ってなかなか社会に出てこられない。その新しい夢づくりのために専門の調理師が行って、なるべく目の前で料理をつくってお年寄りの元気を戻すというような事業をさせていただいております。

それから、もう一つ大事なことですが、フグ処理責任者養成講習会をさせていただいております。フグは、余り聞きなれない言葉ですが、テトロドキシンという毒を持っていて、食べると青酸カリの100倍の力でもって大変な影響が出ます。よく新聞にも載っていますが、生命をも失ってしまう。そのフグを処理してもいいよ、できるよ、こういうふうにしなないとだめですよ、毒をこうとるのですよということを実践で教えながら、また、覚えてもらって調理をする。調理の仕方を教える授業です。これは、中央市場の調理場を貸していただいてさせていただいております。これが、調理師団体の主な事業でございます。

それでは、お与えいただきました私どもの食育推進事業に向かって活動した一部を報告させていただきたいと思っております。

まず、平成20年6月25日に札幌パークホテルの場所を貸していただきまして、「食育サミット健康料理フェスティバル」というものを広報さっぽろに載せました。そうすると、応募が大変多くて、一応、会場から人数の制限を立ててまいりまして、一般市民から233名の方々に抽せんでご参加いただきました。それから、きょうご出席の皆さん方もご出席くださったと思いますが、食育関係者も来ていただきまして、みずから1,000円を払って食べていただきました。この事業をやる前には、それぞれの研究会、ことぶき寿司調理師会という寿司専門調理師が集まって勉強をずっとし続けてその日をするというような過程をとっておりまして、調理師団体の役員も24名参加され、ほぼ300名の方々の中でさせていただきました。そのときに、時宜を得て、私どももさらに調理師と市民と一緒に勉強したいということで、今日の議長であります荒川先生に講師をお願い申し上げて、「北海道型食生活の提案」ということで講演をいただいた後、その事業をスタートしました。ですから、市民と一緒に勉強を受けることができたということで、改めて、荒川

先生に御礼を申し上げる次第であります。

ずっと長年させていただいて回数を積み上げていますが、やればやるだけいろいろな勉強が深まってきますし、調理師も情熱がわいて、もっとこうすべきだという発言が出てまいりまして、よりよく実っていつている状況かと思っています。特に、今、北海道では時代の変革で地産池消を言われていますから、そういうものに向かって北海道の素材をどう生かしてやるかということが当分の課題として続いていくのではなかろうかと思っております。

続いて、予定ですが、3月3日のおひなさまの日に、グランドホテルに協力していただきまして事業をします。これは、北海道の魚、素材で地産池消の健康料理をしようということで試食をいたします。ただ、ここにも書かせてもらったのですが、札幌市市民まづくり活動促進助成金をいただいてやります。一つの税金をもらって市民にやるということで、額面からいって定員を100名以上入れるわけにはいかないということで、恒例による1,000円の会費をもらいながら、食べていただいて、そのときに食べた方々のアンケートなどをもらいながら、さらに勉強を積み上げる。あくまでも、市民の健康を維持するというのを目的でさせていただくのですが、3月3日午後12時から2時までの間に行いたいということで、今、準備を進めているところであります。

これをやるために、実はリハーサル的に勉強会をさせていただいて、その次のページを見ていただきますとわかりますが、先般、試食会をさせていただきました。献立作成者から説明を受けたり、2月4日にグランドホテルの小泉総料理長に献立と中身のバランスの問題、それに対して栄養士の榊原隆子様とその前に何度も打ち合わせをして、もっとこうすべきではないか、こうすればカロリーオーバーにならないとかいろいろなことをやりました。昔でしたら、調理師が絶対うまいもので自信を持つのですが、変化に応じて味を落とさないということが試食会で発表されますから、調理師もかなり熱心に、どうしたらこうなるかというような過程まで中身を公表しました。受講している方は専門調理師であり、経験の深い方で、地域によっては指導者である方がそこで学んで地域に帰ってそういう話をすると、こういう機会を設けさせていただきました。

もちろん、行政にも立ち会っていただいております。意義のあった研修会であったと思うと同時に、3月3日も、限られた人数ではありますが、成功裏に運びたい、こんな思いをしているところでございます。

以上、大まかに食育にかかわる問題だけ報告をさせていただきました。

ありがとうございました。

荒川会長 どうもありがとうございます。

札幌市調理師団体連合会から、既に終わりました事業二つとこれから予定されております事業一つについてご説明いただきましたけれども、委員の皆様からご質問などはありませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

(「なし」と発言あり)

荒川会長 ありがとうございます。

続きまして、札幌市中央卸売市場協会様からご報告をお願いいたします。

武藤委員 既にきょうの資料の中にそろえてございますから、読んでいただければわかりますけれども、これをまとめるに当たって、市場の業務課長であります多田さんが出ておられますので、多田さん、すみません。

私は、水産で生まれて、水産で育ってきて、現在、市場協会の会長をやっておりますけれども、青果の方は業務課長の方がずっと詳しいので、すみませんが、お願いします。

事務局(多田課長) ご指名でございますので、私から簡単にご説明させていただきます。

お手元の資料に基づきましてご説明させていただきます。

まず、水産と青果の両方に協議会を設けておりまして、業界の皆さんと私どもで力を合わせながらという形での事業展開が主でございます。その一つで、水産協議会の魚食普及事業ということで、昨今、お魚離れなどといろいろ言われておりますけれども、本当のお魚のよさをわかっていただく事業でございます。料理教室という形で4月から12月の間に計46回、大学や区民センターといろいろ場所を変えまして展開しています。人数も1,741名と多くの方に参加していただいているところでございます。

2点目でございますけれども、青果の方もいろいろやっておりまして、大体、大きく三つに分けられます。

一つは、やさい・くだもの料理教室です。これは、会場は私どもの調理室を使いまして7月から11月の間に計12回という形で展開しております。消費者というふうに書かれておりますが、これは一般の方というふうに理解していただいて結構だと思います。481名の参加がございました。特に、親子での料理教室というのは、なかなか活気がありますし、いい形で展開しているものでございます。

二つ目として、母と子のイモ掘り体験ツアーです。都会に住む者としては農業体験というのはなかなか難しいところもございまして、これはずばり、農業体験をするためのツアーということでやっております。9月21日に親子78組、人数的には198名と多くの方に参加いただいて好評だったところでございます。

三つ目は、やさい・くだもの消費拡大フェアということで、ホテルの大会場を使いましていろいろなコーナーを設けまして、こちらの委員の中にもご協力いただいている方もいらっしゃいますけれども、試食コーナー、それから、栄養学的なセミナーといったことなど多彩に含めまして開いております。これは、およそ1,000名の方に参加をいただいているものであります。

それから、次ページになりますが、中央市場を見られた方もかなり多いかもしれませんが、業務施設という性格もありまして、まだまだ一般の方になじみが少のうございます。私どもとしては、広く市場見学を受け入れさせていただいているということで、市

場見学の内訳としては、20年4月から12月までの実績で合計8,790名、そして、市場協会受け入れ分と卸売業界受け入れ分に分けた数字でございますが、いずれにしましても、市場を見ていただいた方の数でございます。括弧書きの中に書いておりますけれども、特に、小学生や中学生の見学者もだんだん増えています。あすを担う子どもの見学というのは本当に心強い形で、これからも大いに力を入れていきたいというふうに考えております。

次に、「目利きの達人見~つけた！」運動という変わったネーミングですが、二つの要素がございます。

一つは、魚、野菜、果物を商いとしてやっておられる、特に消費者と直結しています小売の方々自体が目ききであるということで、そういった方の持っているものを広く生かしていただく、単にご商売ということ以上にそういうことを目指していこうというものです。

もう一つは、最終的には消費者の方自身が目ききの達人になっていただくという二つの大きな願いを込めて、これは運動としてやっているものでございます。中身的には、大学の先生方のご協力をいただきながら科学的アプローチ会議ということで立ち上げているわけですが、シンポジウムや料理教室、それから、ラジオドラマということで魚のドラマをつくって放送させていただいております。

こういったさまざまな形の中で科学的なアプローチ、文化的なアプローチというようなことを広く行いながら、この運動を進めているところでございます。

最後に、5番目といたしまして、「食」の情報発信事業です。

これは、大変ありがたいことに、NHKの「ほっからんど北海道」という番組がございまして、市場から生中継で2週に1回ほど、お魚と野菜を交互にそれぞれの旬の情報を発信しています。専用の屋台の台をつくりまして、その時々旬の食材、お魚、野菜、果物をそこに置きまして、専門の小売店の方がそれについてご紹介します。食べ方や加工の仕方などきめ細かく情報を提供しています。これは生中継でございますけれども、そういったこともやっております。

以上でございます。

荒川会長 ありがとうございます。

札幌市中央卸売市場協会様のご報告ですけれども、何かご質問等はありませんでしょうか。どうぞ。

松井委員 質問ではないのですが、「ほっからんど北海道」を本当は見たいのですけれども、時間帯が普通に見られない時間帯なのでとても残念です。今のテレビ番組には食に関するすごくいい番組がございまして、土曜日の5時から「あぐり王国北海道」をやっていますね。荒川先生のコメントが入るのでございますけれども、あれは子どもたちにも大人にもすごくいい番組だと思って、私もなるべく欠かさず、あの時間帯なら見られるのです。これも本当に残念で、夕方6時ぐらいから入れてくださったら本当にいいなと。それであれば朝に入れてくださったらいいなと思います。希望です。

荒川会長 ご希望ですけれども、どうですか。

事務局（多田課長） NHKとよく相談させていただいて、ご希望にできるだけ沿えればと思います。

荒川会長 ありがとうございます。

HBCの「あぐり王国北海道」もよろしく願います。かなり視聴率も高くなって、社内表彰を受けたと言っていました。

それでは、続きまして、札幌市食生活改善推進員協議会様、お願いいたします。

佐々木委員 私どもの協議会といたしましては、子どもから高齢者に向けての食育を進めております。

ここにも書いてありますけれども、親子料理教室の開催でございまして、各区一、二回、全区で計16回行いました。そのときは、はしの使い方、朝食の大切さ、「いただきます」「ごちそうさま」などのマナーについても話をしております。内容としては、「朝ごはんを食べよう」「野菜を食べよう」というテーマに沿って調理実習をいたしております。

2番目の高齢者ひとくち講座でございまして。

前の親子料理教室も保健所健康企画課との共同事業でございまして、高齢者ひとくち講座の開催については保健所健康企画課と介護予防センターとの共同事業として行っております。お年寄りが閉じこもりにならないように、低栄養にならないようにということで地域に根差したひとくち講座ということで全区で行いまして、回数といたしましては58会場で行いました。

1回の参加者は大体10名から20名程度でございまして、そのときに高齢者の食生活のポイントの講話をいたしまして、試食会を行っております。大変喜ばれておりまして、来年は少し回数をふやしていこうというような話をしている次第でございまして。

3番目の食生活改善展の開催でございまして、バランスのよい食生活の普及啓発ということでございまして、各区において地産池消、道産米、地元野菜、乳製品を使って料理しましたものを試食、また、レシピの提供などをいたしますし、パネルの展示もいたします。また、バランスガイドの展示もいたしまして、メタボにならないようにというような食事を考えることなどをお話ししております。

大体、1回の会場参加者は300名から500名程度でございまして。各区民センターや保健センターなどで行っている次第でございまして。

今でも私たち推進員は食育について活動しておりますけれども、これからも推進計画に基づき、なお一層の推進をしていきたいと思っておりますので、よろしく願います。

荒川会長 ありがとうございます。

ただいまの札幌市食生活改善推進員協議会様からのご報告ですけれども、何かご質問などありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

(「なし」と発言あり)

荒川会長 引き続きまして、札幌消費者協会様、お願いいたします。

松井委員 札幌消費者協会は、皆様もご存じだと思うのですが、食ばかりではございませんで、衣食住、お金の話など、いろいろ網羅された消費者団体でございます。

その中で、食育に関することでは、今日ここに上げさせていただいたものがあると思います。

一番最初に書いてあります20年度の食育セミナーは、受託されています啓発事業の一つとしてここに上げております。そのほかに、親子秋鮭教室では、これは定置網の漁業者とのもう何年も続いている事業ですが、1台のテーブルに3組の親子で実際に解体をしまして、中身も全部それぞれどんなふうに使うとか、おなかの中はこういうふうになっているということを、お料理主体というよりも、お魚そのものを子どもたちにわかってほしいということで、今回は初めてだったのですけれども、やりました。

あとは、農業応援団、それから、お魚料理も水産協議会の支援でされているのですけれども、今回初めて、中央卸売市場の調理室を借りて市場見学とあわせてやりました。それから、私どもの研究グループがありまして、そこでは食事バランスガイドを実際を使って、一人一人の食事診断をしまして、一般の方も応募しておりますので、特に男性の方と高齢者を中心として今回はやりました。いろいろなところで親子の料理教室などをやっていますので、私ども協会は、食に関する情報を的確に伝えられる人たちの勉強をもっと推し進めていこうということで今考えております。

といいますのは、先日、私は健康食品のことでシンポジウムがございまして出たのですけれども、小児でもサプリメントを使っている実態があるのです。小池先生はお詳しいのでしょうけれども、やはり、そういう健康食品とかそのものの素材とか流通、輸入食品とか食品添加物も含めまして、食に関する勉強をもっと深めて、それを市民の方たちに伝えていけたらなど、そういう活動もやっていきたいと思っております。

以上でございます。

荒川会長 ありがとうございます。

札幌消費者協会様のご報告ですけれども、何かご質問等はございますでしょうか。よろしいですか。

(「なし」と発言あり)

荒川会長 続きまして、北海道栄養士会様、お願いいたします。

黒川委員 北海道栄養士会でございます。

実は、報告が不十分で申しわけなく思っております。

北海道栄養士会の活動というのは、栄養改善事業を通じて道民の健康保持に寄与するというところでございまして、栄養士会の活動はかなり食育にかかわる事業を行っております。

実は、平成20年度の事業報告がまだ集約されていなかったものですから、きょうは一部だけご報告させていただきます。

一つは、大学生を対象とした食育講座ということで、札幌大学におきまして個人を対象にして食事指導を行いました。

それから、就業前親子を対象とした食育講座ということで、子育てと食育ということで親御さんと子どもを対象にして講演と具体的な食事指導を行いました。場所は、麻生子育てセンターとなっておりますが間違いでして、麻生地区福祉のまち推進センターというのが正しい開催場所でございます。訂正させていただきます。

それから、児童福祉施設を対象としたクッキング講座ということで、調理実習と食育の実践事例等について行いました。

それから、講師派遣は、ご依頼のあった内容につきまして調理実習や講話等につきましてかなりの講師派遣を行っております。

それから、先ほどお話がありました「ほっからんど北海道」ですけれども、実は医療8団体で毎週水曜日の同じ時間帯にお話をさせていただいております。各8団体が交互に担当しておりまして、栄養士会としましては、例えばもっと野菜をとろうというようなテーマでお話をさせていただいたり、給食メニューで栄養管理ということで児童を対象にしたお話、特に3月11日には子どもの食事と食生活ということで予定しております。

以上でございます。

荒川会長 ありがとうございます。

北海道栄養士会様のご報告ですけれども、委員の皆様から何かご質問などありますでしょうか。

よろしいでしょうか。

(「なし」と発言あり)

荒川会長 それでは、資料の最後のページですけれども、本日ご欠席の山口委員の方から、全国調理師養成施設協会様からの報告ということで資料のみご提供いただいておりますので、ぜひ、後ほどお目通しいただければというふうに思います。よろしく願いいたします。

本計画にご努力いただいております団体からの取り組みの事例につきまして、あるいはこれからの計画につきましてご報告いただきましたけれども、これ以外で委員の皆様からこういう取り組みが実際にあるというご報告がありましたら、ぜひ、この機会にお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

どうぞ。

畑委員 日本チェーンストア協会でございます。

私どもチェーンストア協会自体では、6月に食事バランスガイドの啓蒙啓発ということでポスターの掲示などをやっておりますけれども、いろいろな企業がいらっしゃいますので、チェーンストア協会の活動として重立ったものはポスターの掲示による食事バランスガイドの啓発ということが主です。その中で、私どもは札幌東急ストアでございますけれども、こちらには書かれていないのですけれども、親子料理教室を各メーカーとのコラボ

でやっておりました。一昨年からは、市場と連携いたしまして、市場見学をした後に市場の調理室等々をお借りして、たまたまやったのがハウス様とホクト様と私どもです。時期は、ちょうど夏休みごろの8月でございました。人数が大体40名から50名ぐらいでやりまして、通常であれば親子料理教室で終わってしまう、もしくは市場見学で終わってしまうという部分ですが、これに料理教室を加えましたところ、非常に応募が多うございまして、150名ぐらいの募集があります。

それから、毎年、米の収穫体験もやっております、15年ぐらいやっております。たまたま、私どものプライベートブランドという商品があるのですが、そちらが実際にどういうふうにできて、どういう形になっているのかということで、昨年はできなかったのですが、一昨年につきましては、通常、米の収穫体験をして、こういうふうに米がとれますという部分で終わったのですが、ホクレン様の協力を得まして、石狩のライスセンターに行って実際にこういう形で玄米からお米になりますと。これも非常に評判がよくて、バス1台を貸し切るのでありますが、大体120名ぐらいの応募がありました。通常の収穫体験は各社様もやられておりますけれども、ライスセンター等とコラボすることによって非常に評判がよかったです。

それから、やや宣伝ばくなって申し訳ないのですが、私どもはS T Vラジオ様とコラボして、毎年10月の第4週ぐらいの時期に、J Aいわみざわとコラボして土曜日の日高晤郎ショーの中で、J Aの方については、実際に私ども豊平店の駐車場にテントを六つくらい張って即時販売をします。その中で、当然、J Aいわみざわにつきましてもお米がございまして、お米を使ったバクダンというお菓子などを即時販売してまして、実際にこちらの方も非常に評判がいいということです。

そういうことを各社でやられてございまして、今回の報告には入れていなくて申し訳ないのですが、口頭でご報告いたします。

荒川会長 ありがとうございます。

チェーンストア協会を取り組んでおられるさまざまな事業についてご報告いただきましたけれども、ただいまの口頭でのご報告に何かご質問はありますか。

よろしいですか。

(「なし」と発言あり)

荒川会長 では、せっかくの機会ですから、それ以外に何かありませんか。

では、岩崎委員、先にどうぞ。

岩崎委員 私の食と健康財団でやっていることを少しご参考までにご報告させていただきたいと思います。

自然食の料理教室を平成6年から年3回ないし5回ぐらいやっております。これは、私どもの専門の管理栄養士が料理教室をずっと続けておりまして、札幌市の駅の裏にありますエルプラザの中の料理教室でやっております。

それから、平成6年からことしで第15回でございまして、毎日新聞と共催で食

と文化フォーラムというものを開催しております。今回は、だんだん人気が高まってきまして、きょうも朝に打ち合わせをしたのですけれども、今年では会場が狭いのではないかと。最近、盛況でございます、また後でご案内させていただければと思いますけれども、今年には国立健康・栄養研究所の渡邊理事長が来られます。この方は国立がんセンターの疫学部長をやった方で、東京農業大学の教授なども歴任して、今、そういう役職にありまして、ご自身が食事、がんの予防、改善、それから糖尿病を患っておりまして、糖尿病は薬なしで治せるということでみずから私どもの提唱する玄米自然食を実行しているという実体験も含めて、食事と栄養の関係の基調講演をしていただきます。非常に前評判もよいです。

その後には、パネルディスカッションをいたしまして、アンチエイジングで活躍している札幌医科大学臨床教授の渡辺教授をお招きします。この方は、留萌の市民病院の病院長もやっております、北海道大学のがんの助教授もそちらに行きまして、一緒に地域のアンチエイジングやメタボなどを改善するといったことで、その先生方を2人お招きして、その後、渡邊先生にも加わっていただいてパネルディスカッションをいたします。また、女性の方で、STVの料理番組を担当しております星澤さんも非常に食事にお詳しい方ですので、パネラーにお迎えしております。

それから、私どもも農園をやっておりまして、洞爺湖町にございますが、そこで春は田植え、秋は稲刈りをやって、私どものリョウノウ神社というところで感謝祭もやったりしております。そういう食と健康のことをやっております。平成6年に財団をつくりまして、今回は第15回ということでございます。

それから、ここで私が都度申し上げまして、反発を食らうかもわかりませんが、牛乳という問題もございまして、私はやっぱり豆乳も加えたらいいと思うのです。日本人は、元来、DNAの面からいまして、一般的に牛乳など飲んでこない民族なのです。牛乳は乳糖不耐症が随分ありまして、パンに牛乳が入っているだけでだめな人がいるのです。そういう人がアレルギーになってアレルギー国家になってしまっているのですから、豆乳という面も一つは入れたらどうかと私は常々思っております。

以上でございます。

荒川会長 ありがとうございます。

パネルディスカッションはいつご予定ですか。

事務局（高橋部長） 私どもの方にも資料をいただいております、4月12日ということですが。

毎回、ユニークな催しをやっておられまして、4月12日、グランドホテルで午後1時30分からということですが。

また、先ほどの牛乳の話はこの会でもいろいろお話をお聞きしておりますので、その部分もある程度踏まえて検討してきたものと思います。よろしく願いいたします。

荒川会長 また、後日、会議でも取り上げていきたいというふうに思っております。ありがとうございました。

では、小池委員。

小池委員 札幌市医師会です。

私は、小児科医で全部を把握していないと思うので、多分、内科の先生たちもほかの先生たちも食育や生活習慣病のことをたくさんなさっていると思いますが、私個人として情報を持っていなかったので記載しませんでした。

それから、私は小児科医で学校医協議会のメンバーです。そこで、小・中学生に生活習慣病のパンフレットづくりを今立ち上げております。そのパンフレットに私がたたき台をつくりまして、一応、学校保健会という校長先生や養護の先生などいろいろな方が入っている団体がありまして、その方たちにアンケートを送って、これでわかりますかという形にしております。その一部が、こういう形で食べ過ぎると動脈硬化になるとか、子どもはこれぐらいの体重から気をつけなくてはいけないというものを製作中で、多分、ことし中に立ち上がると思います。それが、教育委員会から許可を得ていまして、皆さんの意見がまとまったら印刷してくれることになっております。その時点で、もし教育委員会、札幌市、保健所との話し合いがついて、ホームページなどでそういうものをリンクさせていただけるということがあったら、すみませんが、よろしく願いいたします。

事務局（加藤課長） 関係の食育情報のついては、私どももリンクするような形になっておりますので、ぜひ関係の教育委員会と調整したいと思います。

小池委員 よろしく願いいたします。

以上です。

荒川会長 ありがとうございます。

そのほか、いろいろな取り組みの事例等をお持ちの委員はおりますでしょうか。

よろしいでしょうか。

（「なし」と発言あり）

荒川会長 今日、いろいろご報告いただいただけでも、実にバラエティーに富んだ食育が実践されていることが理解できまして、それだけでもこの会議の意味があると思いますし、この計画推進に当たって非常に明るい未来を感じている次第でございます。

今後とも、ぜひ積極的に取り組んでいただきますようお願い申し上げたいと思います。

それでは、その他の議題をお持ちの委員はおりますでしょうか。

（「なし」と発言あり）

荒川会長 特になければ、事務局の方にお返ししたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

3. 閉 会

事務局（高橋部長） 荒川会長、どうもありがとうございました。

活発なご意見、それから、取り組みを聞かせていただきまして、ありがとうございました。

今、お手元に推進計画の概要版を改めて置かせていただいておりますけれども、今年度スタートして、今、荒川会長がおっしゃっていただきましたように、少しずつスタートできていると思っております。

実は、私どもの経済局というところの所管になりますが、狸小路5丁目のHUGというお店が結構にぎわっております。皆様の中にも行かれた方がいらっしゃるかもしれませんが、**「HUG」**というのは、食育の**「はぐくむ」**という意味も兼ね合わせているようです。ちょうどこの会議でご議論いただきましたように、私ども札幌市は、絶えず北海道の中の札幌市ということ意識して、一生懸命元気を出してやっていると。今は、いろいろな経済状況や予想しがたい事件や事故があって大変だなという思いを皆さんはお持ちになっていると思います。そういう中で、知育、体育、徳育といった心技体のほかに食育というものが一番大事だという思いが皆さんも強まっていると思いますので、ぜひとも、私どもの推進計画に限らず、幅広い取り組みの中で皆さんの思いを実現していただきたいと考えております。

この食育推進会議につきましては、2年任期ということで、新年度は若干の改選等もさせていただくこととなりますけれども、引き続き、皆様におかれましては、内外を問わずご協力を賜ればありがたいと思っております。

本日は、どうもありがとうございました。

以 上